

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム新港 2 階		
所在地	長崎市京泊3丁目30番3号		
自己評価作成日	令和2年7月11日	外部評価結果確定日	令和2年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の診療所との連携で、24時間対応の医療のサポートを受けることが出来、入居者様を終末期まで手厚く介護し、ご本人様やご家族様からも安心して頂けている。スタッフ一人一人がホームの目標「認知症ケアを深める」を念頭に介護を実践し、また、年間を通じ、祭りや行事に参加する等外出の支援を行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103726-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和2年9月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「法人理念」「施設の目標」を基に「グループホーム独自の目標」を毎年職員が話しあって決めている。それに沿って、各職員は「事業所への貢献目標」「個人の目標」を決め、それが具体的な支援目標となり、日々の実践に反映されている。年2回各ユニットの主任が職員と面接し、支援が理念や目標に沿って実践できているか振り返りを行っている。この組織的な取り組みにより、理念が職員に浸透している。職員間の関係性がよく、お互いに相談しやすくフォローしあう等、働きやすい環境が整っている。それにより、日常的に入居者様の支援内容の意見交換や情報共有、アイデアを出し合うことが可能となり、入居者様の支援統一や支援の向上に繋がっている。入居者様に寄り添い、話をする中で、本が好きな入居者様にカタログや絵本を勧めて、入居者様同士や職員との会話が活発になる、野菜を職員と一緒に育てる、食器洗いを自分の役割として積極的に手伝う等、入居者様が好きなこと、興味のあることを継続できるように支援することにより、入居者様がお互いに刺激を受け、人との関わりが改善される等、入居者様一人ひとりが、いきいきと満足して生活できるように事業所として取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を掲げ、職員全員がいつでも見れるようにリビングや事務所に掲示している。その理念に沿った介護ができるように、声掛けや支援を実践している。	法人理念を踏まえて「施設の目標」を定め、それを基に「グループホーム独自の目標」を毎年職員が話しあって決めている。独自の目標に沿って、各職員は、「事業所への貢献目標」「個人の目標」を決めている。それが具体的な支援目標となり、日々の実践に反映されている。年2回各ユニットの主任が職員と面接し、毎日の支援が目標に沿っているか振り返りを行っている。また、朝の申し送り時に理念を復唱する、月1回のミーティングで理念に沿った支援について所長が話をする等、常に理念を意識した支援が行われるように事業所として取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは地域の行事の花火大会やペーロン大会・小学校の運動会等に参加したり、敬老会やクリスマス会等地域のボランティアの方に来ていただいたりしていたが、今年はコロナウイルスの為外出や、行事を控えている。	コロナウイルス流行前は、地域の小学校の運動会や夏祭り等に参加していたが、コロナウイルス流行後は、地域の行事に参加することや地域の方々とのふれ合いが難しくなった。しかし、これまでの地域との繋がりの中で、自治会長や民生委員の方などと顔見知りの関係が構築されており、地域との情報交換などがスムーズにできている。地域の一員として日常的な繋がりが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組みをフェイスブックや広報誌などで発信しているが、地域の方との交流は少ない。知人等から質問がある時は、施設の概要等を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、内容は議事録で把握している。参加者の意見を日ごろの介護に反映している。今年はコロナウイルスの流行で、書面での報告をしている。	コロナウイルス流行前は、入居者様、ご家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センターが参加して、「事業計画」「研修会報告」等を報告する等、参加者と情報交換を行っていた。コロナウイルス流行後は、定期的に運営推進会議議事録を所長が作成し、行政に報告すると共に意見を求め、それを、各ユニットやご家族代表、自治会長、民生委員に渡して情報を共有する等、工夫しながら運営推進会議を継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に長崎市の職員や地域の役員の方に参加していただき、事業所の状況を報告し、意見を頂き、協力関係を築くように努めている。	コロナウイルス流行前は、地域包括支援センターと共に研修等を行っていたが、コロナウイルス流行後は、「コロナウイルス感染予防」「災害」等に関して、行政とメールで情報交換を行っている。また、行政、大学、看護師等が開催する「テレビ会議」に参加する等、常に行政との連携を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が3ヶ月に1回開催されており、その議事録を、ミーティング時に報告し、職員全員の意識を高め、身体拘束をしないケアを実施している。玄関は夜間19:00過ぎは防犯の為施錠している。	各ユニットでの具体的な事例を持ち寄り、「身体拘束適正化委員会」で、対策等を話し合い、その結果を、月1回開催されるミーティングで職員に伝え周知、徹底を図っている。毎日の支援の中でも、問題点や疑問点を職員間で話し合う、気になる言葉かけがあれば所長や主任が注意する等、身体拘束に関する日常的な確認と改善に向けた取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年までは、年に1回は必ず全職員が参加する研修を実施していたが、今年はコロナウイルス流行でできていない。全職員が虐待をしないケアの徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はおられないが、外部研修で学ぶ機会があり、内容は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては所長が行っている。入居時には、ご家族やご本人の不安や疑問点や要望を十分聞き、理解・納得していただくように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族には面会時に、必ず聞き、運営に反映するようにしている。今年はコロナウィルス流行の為、面会が実施できていない。	ご家族からの要望(食事介助等)があれば、職員と話し合い、ミーティングで共有する等、迅速に対応している。入居者様の状況変化時や事故等があれば、その都度、ご家族に連絡する、コロナウィルス流行で以前のように面会ができない分、電話連絡を密に行う等、ご家族との信頼関係を築くように努めることで、意見、要望を言いやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接時やミーティング時に意見を聴いたり、日ごろのコミュニケーション時に意見を聞いて反映させるようにしている。意見箱があるが、最近では意見は少ない。	職員の要望を受け、入浴中の転倒予防のための手すりを設置する等、職員の意見、アイデアを運営に反映している。また、ミーティングの時間を夜から朝に変更する、無理のない勤務体制を話し合う等、職員の負担軽減を図り、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの制度の導入で、個人の目標達成の度合いで評価され、給与に反映されている。また、働きやすい職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がスキルアップができるように、また資格習得ができるように外部研修等を進めているが、参加者が少ない。日ごろの介護でも、お互いに気づきを声掛けしながら、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加するように努め、他事業所との交流を深め、情報を共有し質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を職員間で共有し、ケアカンファレンスで全員で確認している。本人の話を傾聴し、笑顔で対応することを心がけ、安心して過ごせるように対応し、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と情報交換をし、必ず要望を聴き、できる限り要望をかなえようと努力することや、不安がないように説明をすること等で信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況をよく観察し、今必要としている支援を全職員で見極めながら、できる事やできない事を把握して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事手伝いや壁飾り作りや、本氏が得意とするものを職員と一緒にやり、共に暮らすものとして対応するように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし、共に本人を支えていくように、努め、ご家族にも協力をお願いをしている。また、行事等の参加を呼びかけ、同じ時間を過ごせるようにしている。今年は面会が厳しかったので、オンライン面会を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方の面会は少ないが、来られた時は、ゆっくり共に過ごして頂き、関係が継続できるように支援している。今年はコロナウィルス流行で面会を制限している。	これまでは、馴染みの美容室や墓参り、家族と外出、外食を楽しんでいた。コロナウィルス流行後は、ご家族や知人との面会が制限される中で「オンライン面会」や自宅からリモートで、ご家族や親族の顔を見ながら話ができるようにする、ドライブにお連れして車窓から懐かしい風景を見る、グループホームの周りを散歩する等、できる範囲で馴染みの人や場との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を考慮し、トラブルを避けるためにも、席替えを試みながら入居者同士の関係が上手くいくように、また、孤立する方がいないように職員が仲に入り配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、相談があれば丁寧に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の状態に応じ、コミュニケーションを取りながら会話を通じて、できる限り本人の思いの実現ができるように努めている。	毎日、入居者様と接する度により快適に過ごしていただけるように意向を確認している。意思表示をすることが難しい入居者様については、表情から読み取るようにしている。また、ご家族からはケアプランを説明する機会に直接聞いたり、ご家族からの『意見箱』を設置して、いつでも意見や要望を投稿できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族にも話を聞き、新しい情報は個人情報票に追加し、全職員で共有し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌にその日の様子や、心身の状態の変化、職員の気づき等を詳しく記入し、全職員が共有し把握できるように努めている。24時間シートを作成して、一日の過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行ない、全職員の気づきや本氏の状態について話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。	月に1度のミーティングの時に、職員全員で全体の課題について話し合い、共有するようにしている。また、入居者様個人のケアプランは、3か月ごとに振り返り評価をし、プランを修正・更新している。職員1名につき入居者様2名を担当し、前回立てたプランへは、担当の職員がご本人の状況を分析・評価をし、ケア項目や援助内容を決めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にセンター方式を導入し、その人の言動やスタッフの気づきを記入し、その人らしさが出るようにしている。また、支援の実施やモニタリング時の介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に応じた本人のニーズの変化に合わせて、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナウイルスの影響で、思うようにできていないが、近くの公園や施設の周辺を散歩して、気分転換が出るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に週1回、訪診に来ていただいている。必要に応じて主治医に相談し、他科受診になった時にはご家族にも伝え、可能であれば協力を仰ぎながら、受診同行の支援もしている	週に1度、併設の診療所から訪問診療を行っている。症状の程度によっては、専門医院へ紹介をして転院する場合もある。通院は、職員が同行している。初診は必ずご家族に同行していただくようにしている。歯科や皮膚科は往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時には、看護師に連絡を取り適切な処置が受けられている。医療連携で看護師が定期的に訪問され、相談したり助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出し、情報交換や今後の相談や連携ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から重篤化した時や終末期と判断された時にご家族へ説明があり、ご家族の意向を確認し、主治医の方針に沿って、介護職ができることを全職員で支援している。	現在は、1名ターミナルケアを受けられている。(これまで数十名の看取り実績あり) 入居契約時にターミナルケアについての説明と意向の確認をとるが、重度化した際に主治医からご家族へ説明をし再度意向を確認する。ケアプランも容体に応じて都度作り替える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でADEの講習を受け、実践力を身に着けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練、通報訓練、消化器の取り扱い訓練等に参加し、知識や技術の習得に努めている。火災が発生しないように、コンセントの周りの掃除や、火元の確認等行なっている。災害訓練のシミュレーションを定期的に行っている。	火災訓練は定期的に行っている。(併設施設も含めた総合避難訓練、グループホーム単体の自主避難訓練、通報訓練、消化訓練) 消防署立会いの訓練も行い、課題を指摘・指導してもらっている。風水害訓練は避難方法のシミュレーションを行っている。	風水害訓練についてシミュレーションした動線で実際に動くことができるか、訓練してみることが望まれる。また、火災防止については、コンセントなど、火元になりそうなポイントをチェックリストにして、チェック箇所の「見える化」により、より一層の職員の火災防止意識の向上を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意見を尊重し、丁寧な言葉使いで、その方に応じた声掛けや視線を合わせて対応をするように努めている。	言葉遣いや声掛けの音量について職員を教育している。コロナウィルス流行前には、ナイトセミナーで接遇研修を行ったこともある。排泄の調子については、職員間でわかる表現で共有するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思や希望を確認し、自己決定ができるように努めている。意思の表示が困難な方は、表情を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、本人の思いや要望を大切に、可能な限り希望に沿ったケアができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪や整容は行なっている。服選びは、できる方は一緒に行い、困難な方は職員が行っている。行事参加や外出時には、特に気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態にあった食事形態や量を管理栄養士に相談しながら提供している。食後はできる方に食器拭きやお盆拭きをして頂いている。	三食の食事とおやつは、基本的に専門の給食業者からの栄養バランスの取れたものを提供している。季節によってや祝い事の際には、上記以外にグループホームで用意して提供することもある。(そうめんや蒸かし芋) 入居者様の咀嚼・飲み込みの調子に応じて提供する形態を変えて食べやすくしている。ほぼ完食されることが多い。食後に職員と一緒に食器洗い・拭き上げをされる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は毎日記録している。一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできられる方は見守りをしている。困難な方は、その方に応じた口腔ケアを適時行い、清潔を保てるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて、排泄の声掛けをしたり、トイレ誘導を行なっている。また、パット使用の軽減や自立排泄に向けて支援するよう努めている。	排泄パターンは入居者様ごとに記録を付けて、それぞれのタイミングを図って声掛けをしている。夜間はポータブルトイレを使用する方も数名いる。オムツ使用者の場合、パットは日中と夜間とで種類を変え、経済的負担を減らすことと過ごしやすさを考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の確認を行い、下剤の調節を行なっている。また、水分補給も小まめに行うよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人当たり週2回のペースで、午前中に入浴支援をしている。体調不良で入浴困難な方は、体調に配慮しながら、全身清拭やドライシャンプーを行なっている。	人手不足のため、午前入浴のみで、午後入浴や毎日入浴は難しい。入浴介助は、当番でしているため、必ずしも同性介助にはなっていないが、状況に応じて臨機応変に対応している。浴槽をまたぐのが難しい方は、足湯+シャワー等で体を温めるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に手作業など活動を増やし、夜間に睡眠がとれるように支援している。また、体調に合わせて日中休息している方もいる。夜間不眠の方には、入眠導入剤を処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに保管し、全職員が把握できるようにしている。また、事故防止対策委員会が中心になって一人ひとりの薬票を作成し、見やすくしたり、2人の職員で確認し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれがえられる事を役割として行って頂き、張り合いをもって生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の体調に応じて近くの公園や施設周りを散歩に出かけたり、初詣やランタン、花見等出かけていたが、今年はコロナウイルス流行の為できていない。	コロナウイルス流行前は、年間を通してイベントをたくさん計画していた。最近はグループホームの近所を散歩したり、職員と一緒に買い物に行ったりしている。コロナウイルス感染防止対策をしながら、数名ずつドライブに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、少額だが、所持されている方もいる。また、預り金を預かり職員が管理しているが、本人の希望でいつでも使えるようにしており、必要な物があれば、職員が買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を希望に応じ利用できるように取り次ぎ等支援している。ご家族からの手紙や郵便物は本人へ渡せるが、入居者から送られることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節を感じられるような飾りつけの工夫をしたり、温度や湿度の調整を行い、居心地の良く過ごして頂けるように努めている。	季節によって風の通り道を考え、快適に過ごすことのできる家具の配置にしている。日中は共用空間で過ごされる方が多い。季節の飾りを作ったり、生け花を活けて季節によって室内の様子を変えている。入居者様同士で話をされることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳の空間やソファ・テーブルを設置し、思い思いの場所で過ごして頂けるように工夫している。また、テーブル席で一人にならないように席を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物やご家族の写真等持ってきて頂き飾り、居心地よく過ごして頂けるように支援している。	居室内において(特にポータブルトイレを使用する方)に気を付けて、こまめに換気をしたり、消臭スプレーを使うなどしている。備え付けのベッドとタンス以外は使い慣れた家具を持ち込んでいただき、過ごしやすい空間づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付け自室が解るようにし、手すりや角などには緩衝材を付け怪我がないように、できるだけ自立した生活がおくれるように工夫している。職員も入居者の出来ることを把握している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム新港 3階		
所在地	長崎市京泊3丁目30番3号		
自己評価作成日	令和2年7月14日	外部評価結果確定日	令和2年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の診療所と連携し、緊急時のサポートも受けている。終末期には主治医よりご家族へ現状と今後の対応について説明があり、ご家族の意向も取り入れながら支援に努めている。また、職員間では、入居者様の情報を共有・把握し、支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103726-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和2年9月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、リビングの目につく所に掲げている。その理念に基づいた自施設の目標を毎年設定し、実践に努めている。介護方針やケアプランにも理念を基にして反映している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは、地域の行事に参加していたが、今年はコロナウイルスの流行で参加できなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は特に、コロナウイルス流行や人員不足の為、これまでのように地域の公園の清掃などに参加できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していたが、3月からはコロナウイルス流行の為、書面で長崎市・自治会長・民生員・家族代表の方々に報告をし、長崎市からの助言を頂き、サービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録で、事業所の現状等を報告し、長崎市からの意見や助言を頂きサービスに取り組んでいる。また、長崎市からのアンケートに答え、マスクや消毒剤の給付など協力を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が3ヶ月に1回開催され、その議事録をミーティングで全員に周知・徹底し、拘束を行わないケアに努めている。毎年1回全員参加の研修を開催していたが、今年はコロナウイルス流行の為にできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、全員参加の内部研修を開催して、周知・徹底していたが、今年は研修ができていない。虐待につながることはないように、折に触れて話し合いの機会を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部研修で学ぶ機会はあったが、現在利用されてる方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が十分に説明を行い、不安が残らないように意見や質問を受け、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時やケアプラン説明・交付時などに意向や要望を聞き、入居者からは日頃のコミュニケーション時に要望等を聴くように努めている。また、1階のエレベーター横にも意見箱を設置し、意見など聞き、実施できるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	折に触れ、職員間でもコミュニケーションや意見交換をしている。コスモスガーデン新港全体の職員に対しての意見箱を2階エレベーター横に設置して、意見を聞く取り組みをし、意見に対しては必ず返答や解決策を検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度が実施されており、個々の職員の自己評価、目標面接も行われ、各自の状況を把握し、給与アップにつなげている。職員不足が続いているが、意見や提案を聞き、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合わせて外部・内部の研修の参加を呼び掛けていたが、今年度は研修自体も開催されていないので、コロナウイルスが終息しないと参加は難しいが、日ごろのケアの中でも学べるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などに参加し、同業者の方と交流ができていたが、今年はコロナウィルス流行で出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活が始まる時点から、本人の状態をよく観察しながらコミュニケーションをとり、緊張を解くように接し、要望等も聞くように努めている。意思表示が困難な方は、行動や表情などを見て汲み取り安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と時間を設け、じっくりと心配事等を聞き取り、信頼関係を築けるようにしている。また、可能な限り要望等に対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や入居の段階で早急に必要な支援を見極め、サービス導入している。また、併設の診療所だけでなく、他科受診も支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立心や自尊心を尊重しながら、職員が手を出しすぎないように助し、嫌がることはしない。家事手伝いなど一緒に作業をすることで共に暮らすものとしての関係性作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診の初診の時はご家族にも同行をして頂き、情報の共有をしている。面会時に散歩や外食等の提案等をしていたが、コロナウィルス流行で現在は出来なくなった。入居者の状態の変化は電話で連絡を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方の面会があった際はゆっくり過ごして頂いていたが、今年はコロナウィルスの流行で不要不急の面会は控えていただいている。オンライン面会で、ご家族と話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係がスムーズにいくように適時職員が間に入り、相性などを考慮し、トラブルが発生しないように留意して席を決めている。他者とのコミュニケーションが困難な方で孤立される方には傍に寄り添い、安心してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は面会に行ったり、ご家族の相談にその都度対応している。退去された後でも、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の生活に戸惑いを感じる利用者へは、特に注意を払い、少しでも快適に過ごせるよう思いを聴くように努めている。意志表示出来ない方はご家族の意向を聞き、本人の立場を考えて、出来ることをするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や、入居者・ご家族から聞きとりを行ない、ケアマネが初回のフェイスシートを作成、職員が情報の共有ができるように努めている。また、情報提供書などは定期的に更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌の記録で、心身の変化を知り、モニタリング、会議等で、一人ひとりの状況を、全員の職員が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行ない、課題を話し合い、ご家族の要望や、食事面、医療面の意見も取り入れ新たな目標を立てて、ケアの内容を決めている。実行するケア項目は職員は把握し、それに沿って支援に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には気づき、気づきや実施した方法等を書きこむようにしており、利用者の情報を皆で共有するようにしている。課題について職員間で話し合い、対処法を実践し、結果なども把握し、介護計画作成時に参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズを探り、それに近づけるよう職員間で検討し、より良いサービスを提供できるよう支援に努めている。オンライン面会を導入して、入居者ごとにご家族との関係性の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の花火見物の際、見学場所の提供や、敬老会にはボランティアの方の演舞などを依頼していたが、現在はコロナウイルス流行の影響もあり、外部の方の協力は仰いでいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿って受診できるが、併設の診療所の主治医による訪問診療を月に4回を受けている。他科受診時には通院同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所と医療連携を図り、必要時に応じて連絡・相談を行っている。定期的に看護師の訪問もあり、その際利用者様の状態報告を行ない、主治医への報告の仲立ちも行なって頂いている。看護師による処置(インシュリン注射など)も適時受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケアマネが中心となって病院との連絡・情報交換をし、早期に退院できるように入院中の経過をケアマネを介して情報提供をして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約時に、ケアマネ・施設長からターミナルケアの意向についてご家族に確認を取り、重度化した時は主治医からご家族に説明をし、意向を聞き、今後の介護方針を検討している。それに沿って職員は支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目に付くところに対処マニュアルを掲示し、急変時などにはそれに沿って対応している。定期的に通報訓練なども行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	事業所の総合避難訓練、自主避難訓練、通報訓練、消火訓練を定期的実施している。消防署立合の訓練では課題を指導してもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせた声掛けで、判りやすく伝えるように努力しているが、排泄介助時に、プライバシーを保てない場面があった。時々ため語になることもあった。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを日頃からとり、本人に必ず希望を聞くようにし、意志表示出来ない方でも声かけをし、表情などから思いをくみ取るように努めている。要望があれば、可能な限り対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人員不足で、十分にできないが、出来る限りひとり一人の生活リズムに合わせ、一日を過ごしてもらえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	感染症対策で、一時中断していた散髪も再開し、定期的実施できるようになった。また、入浴後や起床時、お化粧をされる方の対応など整容に努めている。好きな服が選べるようにタンスの整理もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく食べられるように、食事形態、分量を見直しながら、ゆっくり食事してもらうようにしている。また、むせる方にはとろみ剤を使用しムセ予防をしたり、小さく刻んだりして提供している。食後に食器洗い、拭きあげを出来る方をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士管理で、バランス良く個々の食事が設定されている。水分は本人の状態を工夫して、無理じいせずに摂ってもらえるようにした。毎日、摂取量の記録をしたり、半年に1回栄養スクーリングを実施し、栄養状態の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々に応じた口腔ケアを実施、義歯は夜間に洗浄剤で清潔にしている。また、歯や義歯の不具合がある際は、かかりつけの歯科医に往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、トイレ、p/wcへの声掛けのタイミングを図っている。オムツ使用者はパット交換の間隔、使用する種類なども詳しく職員間で話し合い、その方に合った種類を選び、無駄や無理のないようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう記録もチェックし、適時処方された便秘薬の服用、座薬等に対応している。また、ハブ茶やヨーグルト等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて午前中に週2から3回入浴しているが、希望には添えていない。肌の状態に合わせて低刺激の石鹸使用や保湿剤塗布をしている。浴槽に入れない方には足浴とシャワー浴をし、温まれるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて、座位が長い時や、傾眠が強い時は適時臥床をしてもらっている。午後は1時間くらい昼寝をもらい、下肢の浮腫軽減の為、挙上を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をチェックし、内容を把握している。薬変更時は体調観察をしている。服薬時はごやくぼうしの為、必ず複数で確認し安全に服用してもらっている。服薬が苦手な方には、食事に混ぜて提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いを分担したり、退屈にならないように手作業、塗り絵、貼り絵等してもらっている。雑誌を熱心に読む方もいる。コロナウイルスの影響で外出支援が困難なので、食事会などを開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間通してイベント時の外出を計画し、メリハリのある生活の為に特別な時間を作るようにしている。ご家族が外出同行し、食事してくることもある。コロナウイルス感染症対策で現在は中断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が無理な方はお遣いを預かっている。財布を自室に置いて安心する方はその希望に沿っている。コロナウイルスの影響で、ご家族との買い物ができない方は、職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話使用している人もいる。充電や操作の介助をしている。手紙のやり取りをしている方は、いない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて家具の配置を変え、適温で生活出来るように、室温や湿度のチェックを行い、エアコンの吹き出し場所にカバーをして風を嫌がる方の対策をしている。殺風景にならないように、また、季節を感じられるように、写真や花等の飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話せる仲間同士で場所を共有したり、少し離れて静かにゆっくり落ち着ける場所で過ごしてもらったり、不穏になる方と職員が過ごしたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で馴染みの家具や仏壇、テレビ、飾り物を置き、自室での安心感が得られるようにしている。また、においにも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩や歩行器、車イス者に合わせ、動線の安全を確認し手すりや家具の配置をしている。危険防止に努め日々居室内も点検している。居室入り口には表札を付け、トイレの場所が解るようにし、自立した生活の継続を支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム新港 4階		
所在地	長崎市京泊3丁目30番3号		
自己評価作成日	令和2年7月18日	外部評価結果確定日	令和2年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している診療所との連携にて、体調不良時の対応が敏速に行われている。また、理学療法士との連携で、生活機能向上訓練を行い、残存機能の維持を行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103726-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和2年9月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やリビングに常に見える所に掲示しており、職員一人一人がその理念に沿った目標を立て実践につなげるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルス流行の影響で参加できていないが、例年、地域の小学校の運動会やペーロン大会の見物に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	フェイスブック等で地域に向けて発信しているが、交流は少ない。また、地域の認知症ネットワーク会議や徘徊模擬訓練に参加し、認知症の理解をして頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の職員、民生員、ご家族・入居者代表の方達と実施していたが、コロナウイルス流行の影響で、書面での報告をし、市の方の意見を聞き、フロアにも配布しサービス向上に活かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらったり、地域ケア推進会議に参加したり、地域包括支援センターと協力をして研修をしたりしているが、今年は、コロナウイルス流行の為、会議が開催されていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回開催されている身体拘束適正化委員会の議事録をミーティング時に報告し、全員に周知徹底をし、事例などについて話し合い、身体拘束をしない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年実施している研修は、コロナウイルス流行の為今年は実施できていないが、虐待をしない支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はいないが、必要に応じて支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は所長が行っている。ご家族が理解、納得できるように要望などを尋ね、丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いやご家族の要望は、職員で共有し話し合いをし、可能な限り対応するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング時や日ごろから意見を聞いている。また、職員用に意見箱を設置しているが、意見は少ない。意見があった時は必ず、返答や対応をし、事案に応じて公表をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の現状を把握されていると思う。キャリアパスを導入し、事業所や各個人の目標を設定し、その達成度に応じて給与に還元されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナウイルス流行で研修が実施されていないが、例年は各職員の能力に応じた研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人企画のナイトセミナーや外部の研修、グループホーム連絡協議会の研修等に参加していたが、今年はコロナウイルス流行で、研修が実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報や個人ファイル、入居者の思いを傾聴し、言動等を職員間で共有し、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安なこと等話しやすい環境を作り、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族の要望を傾聴し、その方が必要とされている支援を職員間で話し合い、より良いサービスができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立心を尊重し、残存機能を活かしながら、できない事は手伝ってくれる職員が傍にすることで、安心して生活できられるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度近況報告を行ったり、状態が変化した時は、電話で現状を報告している。病院同行をお願いしたり、外出支援をお願いし、入居者と関わりを多く持てるように支援している。現在、面会を制限しているので、オンライン面会をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が来られた際は、ゆっくりと過ごせるように支援しているが、知人の方が来られることは少ない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係がスムーズにいくように席の位置を工夫し、関係を持ってもらえるように支援している。レクリエーションや会話等楽しく過ごしてもらえるように工夫している。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にお見舞いに行ったり、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を傾聴し、できる限り意向に沿うように支援している。意思表示できない方は、ご家族に尋ね、少しでも快適に過ごしてもらえるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族から話を聴き、個人情報票にまとめ、職員全員で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を介護日誌に記入し、排泄表、食事表、申し送りノートを活用し、心身の状態を職員で共有し把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングで、職員全員で現状について話し合い、ケアプランの見直しを行い、現状に沿ったプラン作りをしている。また、プランには、入居者・ご家族の要望も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌には、本人の言動や職員の気づき等見易いようにセンター方式を使用し、記入している。職員同士で共有し、介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して、話し合い、ニーズに沿った支援ができるように努めている。現在、コロナウイルス流行で面会を制限しているので、オンライン面会をご家族に案内し、活用されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会やペーロン大会に参加していたが、現状は参加できない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の主治医にて週に1回訪診があつている。また、必要に応じてご家族や職員同行にて他科受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に応じて、併設の診療所の看護師に報告、相談を行ない、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状態が解る現場職員が同行し情報交換を行い、見舞いや相談、経過確認は施設ケアマネが担当者となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合は主治医よりご家族へ説明があり、今後の支援等ご家族の要望に沿った支援を診療所と連携して行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿った対応や訓練を行なっている。AED研修も行い実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	通報訓練、消火訓練、誘導訓練、総合避難訓練など定期的に行っている。水害時等は地域の避難場所になっている。 火災を未然に防ぐために、コンセント周りの清掃をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心できるような声かけや、命令口調や大きな声を出さないように努めている。また、個人の人格を尊重し、一人ひとりの性格に合わせプライバシーに配慮した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の中で思いをくみ取り、職員の一方的な支援にならないように、せかさず、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、その方に合った無理のないリズムで過ごせるように、本人の希望を聞きながら支援している。飲み物や就寝時間等入居者のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選べる方には自分で選んで頂き、できない方には季節に合った服を準備し、身だしなみや清潔が保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事形態や量を提供し、メニュー内容等の会話をし楽しく食べて頂けるよう支援している。できる方には、トレー拭きや食器拭きの手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、栄養バランスの考えられた食事の提供や、食事量が少ない方には栄養ゼリー等を提供している。食事量や水分量、食摂取量をチェック表に記録し、状態の変化に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯は夕食後洗浄剤に浸けている。歯ブラシ・コップなどは定期的に消毒を行っている。必要に応じて歯科の往診も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を記入し、パターンを把握している。自立の方は見守り、介助が必要な方はできるだけトイレでの排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用しながら、排便の有無はボードに記入し、管理をしている。運動ができる方には促したり、便秘気味の方には、主治医の相談し、便秘薬でコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に応じて、週に2回入浴をしてもらっている。入浴が楽しめるように入浴剤を使用している。シャワー浴の方には、足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状態に応じて午前中に、ベッドに臥床して頂いたり、車いす使用の方で座位保持が長時間困難な方は、夜間の睡眠に影響しない程度臥に臥床を促している。室温調節をし、ゆっくり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の確認を行い、服薬時には必ず2名で呼称確認し、誤薬防止を行っている。個々に応じて、オブラートやトロミ剤を使用して服薬しやすいように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能に応じた手伝いを、無理なくできるように支援している。中には、自分の役割として進んでされ、生活の張り合いにもなっている。季節の飾り物を作ったり、散歩や本を見たり気分転換ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルス流行の影響で、家族との外出や花見など季節に応じた外出は出来ていないが、施設の周りの散歩等実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない方は預り金を事務所で鍵のかかる所で保管し、必要なものは購入をしている。手元に現金を持っていると安心される方は財布に少額を入れて持っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、取り次ぎをしている。現在、面会を制限しているため、希望ご家族はリモートやオンライン面会をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものを飾ったり、トマトを植えたりして季節を味わってもらっている。また、空調管理を行い、排泄時の臭いが残らないようにしたり、清掃を小まめにして気持ちよく過ごせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席はトラブルにならないように考慮したり、ソファを配置し一人になる空間づくりや思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が作られたポスターや写真を飾ったり、植木や、ご自身が書かれた絵や置物等を飾っている。テレビを観たり、本を読んだり、自由に過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで歩きやすく、動線を確保している。また、転倒予防の為に家具の配置や席を考慮し、できるだけ自立した生活ができられるように工夫している。		